



監督・脚本＝石井隆／原作＝団鬼六／出演＝杉本彩／野村宏伸／石橋蓮司（東映ビデオ配給／2004年日本映画／115分）

話題沸騰！びっくり仰天！あの、かつての「学園祭の女王」杉本彩が、団鬼六原作のSM映画に登場。女優としての一生を左右する大決断。石井隆監督との「格闘」は、そりゃすごいものだが、勝負はあくまでスクリーン上で……。杉本彩の女優魂に拍手！

🎬 今なぜこの映画が？

東映ビデオ製作による1時間55分の長編成人映画。もちろん18歳未満禁止。パンフレットには、「映倫審査基準で認められなかった禁断の映像を随時更新（有料）」として、そのホームページアドレスが掲載されている。

この映画の製作がスタートしたのは2003年1月。実際に撮影が開始したのは2003年3月からだが、これほど壮絶なSM映画が完成するまでに、石井監督と杉本彩との間ですさまじい「格闘」が展開されたことが、パンフレットをはじめいろいろなニュースで報道されている。

「裏ビデオ」での「本番モノ」の類は、世の中にいっぱいあふれているが、いわゆる普通の映画館で、このような映画が上映されることはきわめて珍しい。

🎬 団鬼六のSM小説

『花と蛇』という、いかにも刺激的なタイトルは、その分野の第一人者である団鬼六氏の原作によるもの。映画の冒頭では、まさにそのイメージどおりのシー

ンが登場するが、蛇の嫌いな私は思わず一瞬目をそむけたほど……。

主演は杉本彩

主演の杉本彩は1968年生まれ。これはたまたま同じ日に観た『ドッグヴィル』に主演しているニコール・キッドマンと同年代で、今36歳。昔は「学園祭の女王」として活躍した美形だが、その彼女が今になってまさかこんな役で……？彼女がアルゼンチンタンゴと出会い、その道に深くのめり込んでいたことは、ストーリー構成上すごく大事。すなわち、アルゼンチンタンゴの女王としての美貌と色香が、主人公転落のストーリーの前提となるのだから……。

もっともこの手の映画については、私なりの言葉や表現で自由にストーリー紹介していくことはちょっと無理なので、それは勘弁してもらいたい。

杉本彩に脱帽！

映画全編を通して、SMの世界がこれでもか、これでもかという感じで美しく幻想的に(?)展開される。また、ストーリーもしっかりとつくりられているので、何ら違和感がないのはさすが。

いわゆる「本番ビデオ」「裏ビデオ」でのSMモノはたくさんあり、もっと露骨でハードかつ生々しいものもあるが、やはり美しく撮るにはテクニックが必要。そして何とんでも女優がすべて！ポルノ女優ではない杉本彩が、ここまでやったことはすごい。女優杉本彩はエライ！見上げた女優魂だ！と絶賛しておきたい！

ちなみに、キネマ旬報2004年3月下旬号で、秋本鉄次氏は『嗤う伊右衛門』を評論し、ここで小雪を絶賛している(111頁)。

しかし彼は、主演女優賞については「それこそ“ハナ差”で破られるとしたら、このお岩=小雪に他ならない！」としながらも、「日本一早く内定させた04年わが主演女優賞は、『花と蛇』の杉本彩である」と述べている。それほど杉本彩の女優としてのインパクトは強いということだ。主演女優賞でなくとも何らかの特別賞を与えたいと思うのは、きっと私だけではないだろう。

2004(平成16)年3月15日記